

うつのみやこども賞だより

平成19年度 第1回

《今月の本》

「扉のむこうの課外授業」

倉橋燿子 / 作 (ポプラ社)



「扉のむこうの課外授業」

倉橋燿子 / 作 (ポプラ社)

犬のドンは最初悪い子で、いい子になるか心配だったけど、どんどんいい子になっていったので安心した。

ダメ犬のドンが最後にアズとスズを助けたところがよかった。

この本を読んで、いくらダメ犬でも命あるものを大切にしようということがわかりました。

アズとスズの二人はいいところがあると思う。本当の強さを知った。

アズとスズのがんばりがすごかった。いろんな問題もドンとアズとスズみんなのおかげで解決していった感動した。

あんなに凶暴だったドンがおとなしくなったことがすごいと思いました。

アズとスズはがんばり屋さんだと思った。

「ぼくってヒーロー？」

立石彰 / 作 (講談社)

ケンカなどが弱くても友達のことが助けられるのがすごいと思った。嫌いな友達も助けてあげてすごいと思った。

ヒーローになりたい真一が、未来人の力でヒーローになって、最初はなさけなかったけど、最後にかおりと千春を仲良くさせたところがよかった。私も自分の力でなんとかしていけるようになりたい。

SKHのベルトは変で、それで変身すると変な格好になったので面白かった。

本当にヒーローになっちゃうなんて面白かったです。カッコ悪いヒーローの服も面白かったです。

本当の勇気って何かと気づいたのはすごいし、何もなしで言えたのがすごい。

「ぼくらは「コウモリ」穴をぬけて」

広瀬寿子 / 作 (あかね書房)

アユムがつー君と一緒にコウモリを観察している場面が面白かった。最後につー君のお母さんに会ったところが一番よかった。

つばさ君がお母さんに会えてよかったです。人の心は、外に表しているものとは違うこともある複雑なものだと思います。

つー君はお母さんと一緒にいられなくてかわいそうだった。洞窟の三角窓の向こうにずっといられたらうれしかったろうなと思った。

最後になってしまったけどつー君がお母さんにご対面できてよかったなと思いました。私もコウモリ穴に行ってみたいです。

「だんご鳥」

飯田朋子 / 作 (新日本出版)

いつもニコニコしているおねえちゃんが、ときどき悪魔に変身するのがおもしろいと思った。

翔のお姉ちゃんを思う気持ちが伝わってきた。はずかしいことをされてもお姉ちゃんのことを考えていて優しいなと思いました。

それぞれの家族の「ふつう」はけっこう違うんだなと思いました。他の人と少し違ってやればできるんだなと思いました。

「ぼく」と「お姉ちゃん」などの家族をほのぼのと描いた作品だと思います。